

平成20年度 第2回佐渡市行政改革推進委員会

1. 日 時 平成20年7月30日(水) 13:30~16:25
2. 場 所 佐渡市役所 3階 大会議室
3. 出席者 17人

推進委員		佐渡市役所	
会 長	中川英男	総務部長	斉藤英夫
職務代理	信田恵子	教育次長	藤井武雄
委 員	伊藤稔	総務部副部長	本間進治
”	宇留間博	事 務 局	
”	甲斐逸枝	総務部行政改革課長	佐藤金満
”	後藤新一	総務部行政改革課長補佐	清水忠雄
”	山本初子	総務部行政改革課行政評価係長	加藤留美子
”	山本保孝	総務部行政改革課行政評価係主事	長尾啓介
		総務部行政改革課行革推進係長	丹下高晴
		総務部行政改革課行革推進係主任	北見太志

4. 会議内容

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
  - 1) 平成19年度改革マニフェストの最終評価について
  - 2) 最終答申書の作成について
  - 3) その他
4. 今後の日程・連絡事項
5. 閉会

会 議 録 ( 要 約 版 )

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事

1) 平成19年度改革マニフェストの最終評価について

(前段、各部局の自己検証シートの活動指標等の記載内容に誤りがあったことから、担当部局長から修正部分のお願いと併せて説明を行う。)

【中川会長】

今の修正によって、最終評価に訂正が必要かどうか、5分程度見比べていただきたい  
と思います。無ければそのままとします。

【甲斐委員】

数値にマイナスが多かったのでそのように評価したのですが、実際には評価が少し上  
がっているがあまり影響がない。

【中川会長】

自己評価には支障が無いという解釈でよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

今後こういうことが無いようにということで終らせます。委員個々の評価は変わらな  
いということで次に進みます。

3名の委員は最終評価には参加できない任期であったということで、確かに委員の任  
期というのは3年と2年に分かれるわけですが、今の時点でこういう形で続ける限り少  
なくとも22年3月でまた任期が切れ、20年度は10人で評価できるが、21年度に  
は、また全員の評価とならない。必ずこれを繰り返すので、評価時期なりを今後の課題  
とするべきかと思います。

集計表については、委員名は伏せてあり、それぞれの委員が各項目に対してどのよう  
に評価したかが分かるように集計されています。これを参考に、各委員が事前提出した  
評価表をまとめた答申書の案を聞いて修正を加えていく作業にしたいと思います。事務  
局から説明をお願いします。

## 2) 最終答申書の作成について

【北見主任】

各委員から最終評価の報告を受けましたので、その結果を基にまとめました資料を事  
前配布しています。その資料を叩き台として、審議いただきたい。

初めに記載してある内容の説明を佐渡市行政改革マニフェスト(総務部)の評価で説明  
します。

上段に「今年度の取組に対する各部局長のコメント(自己評価)」の欄があり、ここに記  
載してある内容は、各部局長が自己検証シートの3)総評を転記しております。続いて中  
段の改革項目の欄ですが、これはマニフェストに掲げた項目名です。評価結果欄につい  
ては、各部局長が提出した自己検証シートやプレゼンテーションに基づいて、各委員が  
評価した結果を集計したものになります。最後に下段の佐渡市行政改革推進委員会のコ  
メント(第三者評価)の欄ですが、【計画の妥当性】・【取組過程】・【実績】・【実施後の対応】  
の4つに分けて記載しており、このコメントは各委員が評価表に記入した内容をまとめ  
たものです。【計画の妥当性】と【取組過程】については、今年3月31日に市長へ中間  
答申した内容を転記したもので、新たに追加した【実績】と【実施後の対応】について、  
審議いただきたい。

【中川会長】

評価結果が非常に低いという結果になっているが、逆に自己検証シートを見る限りは、

各部長とも自己評価としては高い点数をつけたところもある。そこらの整合性もあるが、年度当初に評価の方法を決めてスタートしているので、今になって評価基準を変えるというわけにはいかない。資料を見ながら総務部から順次、これで良いのかという点を聞いて、最後にこういう点の評価がやり難かった、或いはこういう点は部局長の自己評価とずれているのではないかと、それから低い評価にとどまった事に対する理由等がありましたらお聞きしながら進めたいがよろしいか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

総務部に対する各委員の評価を集計しますと、計画の妥当性、取組過程、実績、実施後の対応、総合の全てがCで平均的である。良くもなければ問題があるでもないという評価になるが、全てCになるのも致し方ないことでもあるのですが、或いは凹凸があって良いのかということもあるのですが、いずれにしろ評価は終わっている。特に部局長のコメントもあるわけですし、下の方の第三者評価、これが我々委員会のコメントになりますが、意見等があれば発言をお願いしたい。

【山本初子委員】

この評価結果は文言も含めて全て公表されるのでしょうか。

【北見主任】

全て公表されます。

【山本初子委員】

取組過程の中で本庁、支所間の温度差は縮まっておらずとあるが、これは市民に変な期待を持たせるような文面と思ったのですがどうでしょうか。

【中川会長】

意図とするところは本庁では部があり、その下に課があり部長は掌握できます。ところが支所へ行くと本庁のいくつもの部局をまたいでおり、本庁と違った形で情報が伝わっているのではないかと、本庁と支所では捉え方が少し違うのではないかとことを言いたかったのです。市民環境部なり産業観光部なり、支所では色々な部局のことやり、市民との直接対応は支所職員しかいない、本庁で調整をして欲しいというものです。

【甲斐委員】

この表現だと市民が見たときに、その通りだということになって良いと思う。温度差は本当に縮まっていないのだから縮めなさいという委員会の意見となる。

【山本初子委員】

縮まらないという現状を市民は分っていると思う。

【甲斐委員】

分っていても書かなければならない。知っていることと進めていくことは違う。

【中川会長】

市民が主体なのでそこが見えてこないとうまくない。

【甲斐委員】

支所よりも、本庁機能が全島に網羅すべきだという書きの方が良いのかもしれない。

【中川会長】

温度差というのは抽象的なので、他に文言があれば、訂正に対して議論していただきたい。結局、支所の声の本庁のマニフェストのどこにきているかが非常に疑問だった。本庁は市民の顔を見ないで進めようとするが、その不満というか反発が大きいようである。だから何のためのマニフェストなのか考える必要がある。

【本間総務副部長】

この表現を見たときに職員間の意識のズレというふう感じた。今、協議いただいている行革の方向性を示すうえで、本庁はその方向性に向かってやろうとしているが支所は窓口を抱え市民から直接抵抗を受けていることからズレができていのかかもしれない。これからは市民に色々な事をアピールして行政は今までと同じような事はできないです、ということ伝える必要がある。職員数も減となり、民間の力を利用しながら色々な方法が必要ということは認識している。

【甲斐委員】

今話を聞いていると、行政側はサービスが怠っても仕方がないですよ、ということですか。

【本間総務副部長】

これからの市が進む方向性を示しながらということですよ。

【中川会長】

本庁機能の更なる充実、支所機能の低下と市民によっては捉えるのではないかと。

【山本初子委員】

本庁を徹底的に充実してもらわないと支所が迷いながらの住民サービスになってしまう。本庁が支所から協力を得て運営するのが一番良いと思っている。

【本間総務副部長】

なかなか難しく支所ごとに特色があり、意識の違いはあります。これを本庁が調整することに時間を取っているのは事実です。よって本庁に集約して意識を統一すると、支所は市民窓口を充実させて、それを特化しよう。支所だから本庁の事は分らないといった発言はしないようにと言っている。

【宇留間委員】

16年の合併から住民はある程度、認識して合併に賛成した。こうなるだろうということは分かっていると思う。ここに書かれている職員意識の温度差は職員同士のエゴの問題だと思う。今まで2000人近い職員が居た中で、合併後、職員数を3分の1に減らそうとしている。市民は今までどおりのサービスは期待していないと思う。住民は賛成して合併したのでこれを行政サービスの低下と捉えるのは認識の違いだと思う。

【中川会長】

色々な意見がでましたが、本庁支所間の温度差うんぬんを消して、例えば「本庁機能を充実させ支所との連携を更に強化、調整する必要がある」ということでよろしいか。

【全委員】

はい。

【甲斐委員】

全体のまとめとして評価表を見たときに、行財政改革に取り組む中核の総務部、企画財政部にB評価がないのはおかしいと思います。会長名で一筆必要ではないだろうか。

【中川会長】

Cが6部局、Dが5部局ある。Cは当たり前、Dは少し問題があるとなるが、これを見て市民はどう感じるか。これから大事なことは行政改革という言葉の持つ意味というか、市民は何を求めて何を望んでいるのかという点がややもすると、役所内の事務改善で対応するような事を行政改革と銘打ってマニフェストに掲げてという中身もある。そうすると行政改革としての評価というのはできないというか、低い点数にならざるを得ない。各部局の評価内容を協議した後、全体の協議とさせていただきたい。

【後藤委員】

支所長の権限は本庁でいうと課長、それとも部長なのか。本庁と支所の温度差は住民サービスとどう繋がっていくのか、本庁に権限があって支所長に「こう改革する」というような指示をするのか。

【中川会長】

その点についても最後にします。総務部はこれでよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

企画財政部はどうでしょうか。

【山本初子委員】

取組課程で、「部長のリーダーシップと所管職員間の意識に、一部意識疎通の欠如が伺える」とありますが、意識という言葉が続くことからまとめるべき。

【中川会長】

前段の意識はいりませんね。企画財政部について、他に気づいた点ありますか。

特になければ市民環境部はよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

福祉保健部、よろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

産業観光部はよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

建設部、よろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

次、議会事務局、よろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

次、教育委員会、どうでしょうか。これは取組課程の中のトレーニング室の項目は目標を達成していますので、この部分の意見は削除します。

【山本初子委員】

実績のところの世界文化遺産ですが、文章に書いた通りですが、もう少し分り易い短い文章にならないか。

【中川会長】

はずすとなれば「目標値～不可欠であり、」までをはずすか、文言を全て変えるかでどうでしょうか。

先に選挙管理委員会はどうでしょうか。農業委員会、消防はどうでしょうか。

先ほどの教育委員会の文言、どうでしょうか。

【信田委員】

全て大事なことを書いているので、「目標値を上回る実績があったが、今後も市民の理解と盛り上がりは不可欠であり、目標値をランクアップし、強いリーダーシップでの継続が望まれる。」に一言加えるとどうでしょうか。やっぱりまだまだ理解をしてもらわないと、盛り上げてもらわなければならないので、抜けてはならないと思います。

【甲斐委員】

このままでいいのではないのでしょうか。

【中川会長】

このままとします。

【中川会長】

選挙管理委員会、農業委員会、消防本部はよろしいですか。

【全委員】

はい。

【中川会長】

答申は、答申書にこの評価結果を添付する形か。

【北見主任】

はい。

【中川会長】

前は但し書きを付け加えて答申している。

【甲斐委員】

ここまできると市長のリーダーシップを問わなければならない。公表しなければいいが、公表するわけだからこの評価結果だけでは伝わらない。

【中川会長】

例えば行革本部で考えている評価と委員評価の差は大きかった。これをそのまま公表した場合に、委員会もそうであるが、市にも相当な風当たりはあると思います。

【山本保孝委員】

市民が求めているのは普通よりも少しでも上を求めているわけですから。

【中川会長】

数値目標を出して目標に達して、そして良かったという評価をすれば、目標数値を抑えてしまう。それでは駄目である。大切なことは、収納率等は目標100%を掲げる、そのような取組みの中での評価なのかどうかという点でもずれてくると、行革本部として自らの評価としてはAなのに推進委員ではCなのか、こういう評価基準、評価マニュアルに従って評価した場合、そうなるのかと疑問が大きくなってくると、なかなか評価できなくなってくる。

**【甲斐委員】**

その評価のやり方の整合性について、よく説明しなければならない。評価のギャップと私たちの議論の中でも、100%に達したらA評価です。そのような評価で進めましょうと合意はありましたが、実績数値だけで、Aが良いのか疑問がおきたときに、評価がAじゃなくてBCになる。市民にそういう意味でC、Dになったという説明の基準をきっちりしておかないと私たちにも責任がある。

**【宇留間委員】**

目標数値設定に行革委員は携わっていない。その目標数値が本当に適正な目標数値なのかどうか。それから実績が100%になったと、それが委員の思いと一致しているかどうかとは、違うと思います。あくまでも決めてそのとおりにするのであれば10人寄って評価する必要がない。ひとりの知識のある人間でよい。目標数値設定について、Cという委員もいるだろうし、それぞれが違った評価をする。目標数値設定の時にこの委員会が入って、それから実績が出たのであれば会長が言われることも理解できる。これは個々の認識の違いで仕方ないことです。

**【中川会長】**

各部局長が自己検証して、その数字が出るわけですが、各部局長が悪い評価をするわけがない。それではマニフェストの意味がない。それに対して今、われわれが取組過程、実績、取組後の対応はどうかを含めて評価するわけですから、当然、差があつていいと思います。逆にABが大半だった場合を考えてみれば、なんだったのかということにもなる。低くて良いと思うが、公表する中での説明の仕方というのは、適正にやってやらないと市民は我々の意図も或いは各部局長の意図も吸収してもらえないのではないかと思います。

**【宇留間委員】**

その適正という線引きがどこにあるのかというと非常に難しい。

**【甲斐委員】**

自己検証シートも公表するので、自己検証シートが良いのに我々の評価が悪いという説明はする必要がある。そうしないと職員も頑張っているのだから、ギャップの意味合いだけはコメントしてあげないと理解してもらえない。

**【中川会長】**

自己検証シートは項目ごとにABCDE評価しています。委員が評価するのは全体での評価となりブレが出てしまう。昨年から事務局はこの評価基準で良いかと我々に諮って進めてきた。総合的な判定はプレゼンテーションでしかできない。宇留間委員が言われたように単なる決まりごとで評価するなら内部で実施できるが、ブレが大きいと説明責任がお互いに出てくる。

【伊藤委員】

評価結果が低いというものは事業計画を実施した経験のある委員が多く、少し汗をかいて知恵を絞ってもらいたいという気持ちが多分に含まれていると思う。マニフェストを作る時点で参加して検証していかないとどうしてもこのような低い数字になってしまふ。19年度を今から戻してやることはできないが、そういう点の説明は必要であろう。

【甲斐委員】

マニフェスト作成には携わらなかったかもしれないが、最終的にはマニフェストを容認している。それがダメだとするならばそこでダメだということを言わなければならぬ。一緒に動いてきた経過の中で、説明してあげれば済む、違いがあって良いと思います。極端に違ったことを説明することによって、市民の人がもう1回評価する場を与えればそれで良い。つまりそれが公表ですから、そういう段取りだけした方が良いのではないですか。当然違って当たり前、認識も違いますので説明を何項目か入れてあげれば良いと思います。

【中川会長】

答申なり中間答申なりで、重点的に検討してほしいと絶えず言っているので、それを推進本部でどう捉えて次に反映させるかである。時間的なズレもあり、既にマニフェストができています。今、最後の答申をしてもすでに20年度マニフェストは公表しています。そのあたりの整合性がとれているのか、十分に検討してもらいたい。

【佐藤行政改革課長】

マニフェストを作る段階で、本部会議に報告して意見の反映には努めています。それでも先ほどから言っているように色々な指摘をいただければ、その事は本部会議で検討し、見直しを図ります。ご指摘をいただければ改善に繋がるものと思います。

【後藤委員】

我々は答申する。議会で議員から追及される、市長は行政改革委員がこうゆう答申をしたからそれに従って行政改革を進めるといふ答弁をなさるのか聞きたい。そこに大きな問題点が出てくると思う。市民もさることながら、議会もある。我々は答申、議会は質問できる。市民の生の声を行革推進委員が見て答申するのが当委員会のシステムではないかと考える。部長が一生懸命やられた努力は買うが、各課の連携が大きな問題である。何の連携もなく楽観して評価されているのではないか。

【甲斐委員】

私たちは諮問を受けて答申するのが役割で、議会も市民の選挙でもって選ばれている。行革委員も市民の代表なので、この答申を生かすも殺すも市長がそれをどう取組むのかだけである。市民の立場で検証すればよい。

【中川会長】

3月に20年度マニフェストの取組みについて、当委員会として6項目を提言している。(1)マニフェスト作成にあたっては、改革目的や手段等を具体的に示し、市民が理解できるものとする。(2)改革の取組みは市民ニーズに配慮し、直近重要なものから取り上げること。(3)各部署長の強いリーダーシップの下、挑戦するに足る目標や取組みを掲げること。(4)マニフェストの取組みが、市民及び職員に広く理解されるよう周知徹底を図ること。(5)マニフェストの取組みは、広報誌やホームページだけでな



く、あらゆる手段で市民周知を図ること。また、市営テレビ等を積極的に活用し、各部署長の顔が見える取組みとすること。(6)目標達成にあたっては、市民への十分な説明と理解を得ること。

これを当然、推進本部会議で承知して、20年度マニフェストを作ったわけですから、これをどの程度は反映されているか。既に20年度マニフェストは走ってしまっている。答申に対する重さなり、時期なり、色々な事があると思う。提言したにも関わらず、目標が低ければ評価も低くなるのは当たり前である。自己検証シートと委員評価とは違って当たり前でいいわけで、どの程度、本部会議で論議をされて、今年こういうところを改善しようというところが聞かせていただければ納得がいくのではないか。

**【佐藤行政改革課長】**

本部会議におきましては、通算2回ほどマニフェストに対する議案ということで進めました。答申事項もその都度、示し調整は行ってきました。しかしながら結果として答申の提言に全て合うような形にはならなかったかもしれませんが、本部会議では答申を受けた取組みを進めています。

**【宇留間委員】**

役所内の力関係だと思います。行政改革課長にある程度の力を与えればよいですが、各部長が各課に指示をして出すと。とても今の体制の中で各部長が行革課長の言葉を受け入れて、取組んでいるように見えない。この前、部長が出席できなかった部署もあり、そのような体制を見ても3年目で慣れてきたなど、少々の事はやり過ごすことができるような考え方が。この辺で何か喝を入れて、きちんとした対応ができるようなことにしないと、この評価は絶対にあがらない。

**【丹下係長】**

当委員会からの提言に対してどのような取組みをしたかと言いますと、市民周知の取組みの提言をいただいております。そういった中で今年度新たにマニフェストを民間の商店、理髪店などに配置いただき、より多くの市民に見えるように取組みを進めておりますし、その他にも顔写真入りのマニフェストにしたり、CNSテレビで各部署長が出演し、直接説明するなどの新たな取組みもしています。

**【中川会長】**

事務局にお聞きしたいのですが、今日これから市長に対して最終答申をする予定ですか。

**【丹下係長】**

日程を改めて調整します。

**【中川会長】**

この答申に加えて総合的な提言なり、各委員の意見をまとめて、今日、答申するとなるとまとまらない可能性があるのでは伺った。

冒頭に甲斐委員から言われたように、これはこれで少し文言を直して付け加えることとして、その他に以前提言したようなものとか、或いはこの前、付け加えたものもあるのでそれらを加味し答申したらどうか。今からでは21年度マニフェスト作成にしか反映することはできないが、答申内容を踏まえた取組みとしてほしい。もう一つ、20年度の取組過程には反映できることがある。当委員会としては、総合的な意見提言という

ことも踏まえ取りまとめを行うことになる。その進め方でいかがでしょうか。

【全委員】

賛成です。

【中川会長】

各委員に一言ずつお聞きしますので、どのようなことを答申書の別紙なりに付け加えたらいいのか、意見ををお願いします。

【伊藤委員】

18年から数値化と併せて継続項目については、前年対比ができる表現としてくださいとお願いしましたら、確かに見直されています。但し、今度は達成可能な目標を掲げそれを100%やったからAにしてもらいたいというようなことを感じる。例えば保育料にしる、税収にしる、前年対比1%下まわったというようなことを繰り返されていては、真剣に市民目線で仕事をしていると思えない。そういう点を改めていただきたい。

【宇留間委員】

各部局のトップは徹底して行革を進めて欲しい。辛い部分を数字に出して取組んでいただきたい。当然、水道料、税の滞納など、目標はあくまでも100%の中で対応していくのだというふうなことを事務局でうまくまとめていただきたい。それから非常に心配なのが下水道の問題で具体的な話をすると1万世帯が供用開始したと、その内、何世帯がそれを利用しているのか、その加入率を示してもらいたい。これは必ず佐渡市の負担になってきます。そのような数字を出してもらいたい。それから財政状況にしてもこれから悪くなるということを財政部長ははっきり言っていますので、せめて実質公債費比率が18%以上にならないような努力をして欲しい。

【甲斐委員】

マニフェストで掲げた数値は達成するものとして、それを市民と一緒に共有するためには自分達の入り口、自分達の壁、自分達の部屋の中に目標数値を掲げたものを張り紙してください。ということをお願いしたことがあります。今、ほとんどの部署で数字が達成されていないことを反省しているわけです。であれば掲げて周知しなければ、課員もそれに向かっていくということが、自分達の視野の中にそれが入らないと意識の徹底はできないと思いますので可能な限り掲げて欲しい。もう一つ、市民周知が重要なことですが、先般、ある支所へ行きましたら、8月に大勢の方がブレ大会に来るというにもかかわらず、窓口の職員が知らない。そんな話はない。外部に言う前に職員に佐渡市の全行事等が周知徹底できるようなシステムが必要。特にこの行財政改革については、張り紙をして自分達が意識を持ってもらいたいということを切にお願いしたい。

【山本初子委員】

所管職員の中の意思疎通の欠如が見られるようなことが各所に出てきます。部長をはじめ所管職員全てがマニフェストに掲げてある目標値を把握し、それを達成するために一生懸命頑張ってもらいたい。また、市民の方々から協力を得なければ達成できない目標値もありましたが、市民に周知が必要な項目については、しっかり説明をして協力を得て進め、そして目標に少しでも近づけていっていただきたい。

【山本保孝委員】

行革の委員会があるということはCNS番組等で分ります。その番組を見た人たちの

声を聞いたり、或いは市議員との話しの中で、部局長のマニフェストに対して職員が非常に厳しいという声があると聞きました。だから年々達成率が悪くなるだろうと言っておりました。一般の人も議員もそのような言い方をしております。その問題はどこにあるのかと考えてみると、どうも部課長が独りよがりをして、職員が本当にこの行革をやらなきゃいけないという意識がまだまだ乏しいのではないかという気がします。

【伊藤委員】

自己検証シートを見ていますと、例えば達成できなかった、もうちょっとで達成できた、それについて検討をしたかということが書かれていますが、なぜそれが達成できなかったということについては、各部局で内容は分かっていると思いますが、それについて具体的な対策がまったく出てこない。来年度はこう対応しようというような具体的なものが見受けられない気がする。

【中川会長】

それでは事務局に回答をお願いします。回答の後、新しく委員になられた後藤さん、信田さんからこの委員会はどんなことをするところが十分ご承知だと思いますので、委員会に出席されて、色々な意見があると思いますので、伺いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

【佐藤行政改革課長】

次のアクションに対応がなされていないということだと思います。ご指摘のとおり、対応されていない部分もあるかもしれません。しかし、マニフェストの継続項目というのはどの部局にもありますし、それを拡大解釈していただくしかないかなと思います。完全に全ての項目に対して、やっているかと断言できません。

【本間総務副部長】

この部分は各部長の考え方が大きく影響しております。総務部では、マニフェストに掲げているもの以外にも事務事業がありますので、各係から4半期に1回、達成状況とどのような考え方で進めているかを部内で会議を開いております。今後、それに対してどのような形で動くのかを含めて検証はしております。

【中川会長】

関連してですが、支所からはどのような意見がありますか。

【本間総務副部長】

支所については掌握しておりません。こちらからの伝達は連絡調整会議で支所長を交えて情報伝達は行い、下へは伝わりますが、支所長から上がってくるのは毎日の日報で、その他はありません。

【伊藤委員】

目標を掲げた項目について、達成できなかったものについては「困ったな」というようなことだけですか。何が原因で達成できなかったのか、厳しく追及するような具体的なやり取りは無いのですか。

【本間総務副部長】

総務部については目標に達しない場合、なぜできなかったのか検証は行っています。

【伊藤委員】

実際にはマニフェストを消化するために副部長以下、陣頭指揮を取っていると思いま

すが、2ヶ月に1回だとかチェックしていけば下方修正なり上方修正なりをしてくださいというような指示もあってしかるべき。そのようなことがないと本当に真剣にやっているのか疑問である。マニフェストを真剣に取り組まれているなど感じられません。一度にはできないと思いますから、完成に向けて努力していただきたい。

【甲斐委員】

伊藤さんのご意見ですが、自己評価のところには良かった点、悪かった点がありますが、良かった点は更に進めればいいわけですが、悪かった点は必ず反省している欄があります。全体的には職員、それから市民に周知徹底できないところが実績に繋がっていないというふうな印象として、部長達も持っているものを悪かった点に書かれていると私は感じとっているので、悪い点を直せばいいのだから次年度に悪かった点を徹底的に検証した上でそれを活かしてくださいという項目を入れれば今の話はつながる。

【中川会長】

それが冒頭に言いましたように地域住民は行革に何を求めて何を望んでいるかということ、事務サイドは事務改善で取り組むような中身をもって改革マニフェストと扱う、その認識のズレだと思う。その認識を職員からもしっかり持ってもらわないと何も変わるものはない。噂では市が求める公募の色々な委員がいるが、全然集まらないような委員会なり、地域もあるそうです。それは何かというと、「どうせ」というような考えがあるようだ。際立ったもの斬新なものがマニフェストに入っていないと、市民の期待が得られない。

各委員から色々な意見をいただいたが、新しく委員になられた方、今日で2回目になるわけですが、マニフェストに対する評価というふうなことも含めて、色々な意見があると思いますが、後藤委員の方から一言いただきたいと思います。

【後藤委員】

7月24日に行政改革課長から資料をいただいたが、19年度はこれで良いと思う。それでこの中で、私が思ったのは福祉保健部ですが、各課の連携が相対的に取れているのかというだけで、あとは19年度の答申内容に異論はありません。

【信田委員】

19年度マニフェストの評価を見せてもらいました。点数で達成率が高く、結構数字が満点もあり100%達成かなと思うところが、全体でいくとCというところもあります。目標の甘さというようなこともあるのかもかもしれませんが、評価が厳しいと思いました。具体的に昨年度の様子が分らないし、この見せてもらった委員のコメントですが、委員自身のコメントも具体的にならなくて分らない。もっとこうしたら良いじゃないのかというような具体的なコメントもあって良いと思います。玉虫色の評価の感じがしました。皆さん方に比べ、まだ市民に近い目線であるとの思いから一言言わせてもらいました。この評価結果を出すわけですが市民は具体的にこれを目にして一つ一つがどうだということが良く分らない。支所と本庁の対応の違いもありますが、地域にするとあれも駄目、これも減らされたという不満ばかりなので、これを切り捨てなければ行革は進まない、ただ全て減らせばよいのか、ここは減らすけどここはこういうところがあるから元気になれるのだというような、市民を元気にしてもらえようマニフェスト、また委員の意見があつて良いのではないかと思います。こういうふうに進めると

市民からも理解が得られるのではないかというような提言もしてあげられると良いのではないのでしょうか。

【中川会長】

各委員から意見をお聞きしたわけですが、各委員が言われた意見等も含めて、答申書の中に含めたいと考えていますが、提言の時期が8月に最終答申をする形になるわけですが、そこに書かれてある文言を推進本部でどのように捉えて、マニフェストにそれを盛り込むかということについては、21年度からしかできないわけです。そういったところのギャップをどう埋めていくかということのも逆にはこういう委員会を設ける行政改革というふうなものも考えられないこともないわけです。そのあたりを色々と検討していただきたい。委員任期も2年3年と言いつつも重複して年度最終答申を行うまで10人の委員が揃うということは1回か2回しかない。再任がない限り、最終答申は5人という事態もある。

答申に掲げた委員の提言なりがいつの時点でどう反映されるかという点とやはり揃った委員で最終答申までしなければあまり意味がない。ということも含めて今後の委員会のあり方そのものを改革するのも行政改革だと思います。税収を0.1%あげる、或いは保育料を滞納者から少し徴収率をあげる、そうした事務的なものはマニフェストではないと思います。これはあくまで通常の業務。事務改善の中で行えば良い。そのあたり行革ではないということをご理解いただきたい。

それから公表して良いか悪いかはともかくとして、田村委員からのコメントもちょっとご紹介したいと思います。「概ね良いと印象を受ける。しかし、全般的には思ったよりも評価が非常に低い」というふうなことが率直な印象だそうです。教授も厳しい評価をしたが、各委員は更に厳しい評価をされたということで、それはそれなりに委員の立場で評価されることですから、それはそれでいいのですが、こういう評価の中で各部局長が自らのモチベーションを保つことができるか、そこらあたり少し不安が残るというようなコメントでした。

今、かなり意見が出たが、前回の委員会の今後の日程の中で第3回は10月末頃という話があったが、それまで会う機会も無い。そうした中で今日、出た意見、これを事務局でまとめたいただきますが、答申書の作成にあたって、お諮りしたA4版の11部局の評価は一部文言を変えて付けるということの他に、かがみ文と今、提言されたことをまとめたものについて一緒に答申書に付けるという形を取りたいと思います。色々な提言が出ましたが、全部のせるのは難しいし、表現も極めて難しいということでございますので、事務局でまとめたものを配布してもらい、8月4日までに事務局へ連絡いただき、提言したいことは答申書に盛り込んで答申をしたいと思います。それについて、取組む取組まないは別問題でありますので。そのような流れでどうでしょうか。

【全委員】

それでいいです。

3) その他

【丹下係長】

前回の委員会の中で今年度、行政改革課の中で取組む重点事項について、一つには組

織機構の見直し、次に行政評価、公共施設の見直し、最後に補助金等の見直しの4項目について本年度行政改革課で取組みたいということを説明しました。今日の委員会の中で方向性が見えたものについて、再説明し意見等いただきたいと思っておりましたが、検討段階で示すことができないので、取組み状況について報告します。

まず、組織機構の見直しについては、現在、事務改善委員会の中に分科会を設け、次年度以降の対応並びに将来のあり方について、協議を進めております。分科会では協議範囲が広いことから、分科会の中に作業部会を設け、支所本庁のあり方並びに将来の支所のあり方について協議を進めており、8月中を目途にまとめる方向で進めております。

次に行政評価ですが、事務事業全般の評価を終え、総合計画の施策体系に沿った形で施策評価を進めているところです。この後、21年度予算編成に向けて、それらを活用していきたいということで財政課と調整中で、評価内容については、21年度の予算確定時に公表できるよう取組みを進めております。

次に公共施設の見直しですが、昨年12月に市の考えている各施設の方向性について公表させていただきました。その後、地域説明や市民からの意見等を参考に更に見直しを進めております。今月末までに各部局から再見直しの報告を受け、8月中に取りまとめたいということで作業を進めております。

最後に補助金についてですが、一部の補助金については行政評価の中に盛り込んで見直しを進めていますが、先日、お話をしました地域型交付金制度の創設ができないかということで取組みを進めているところですが、そちらについても現在、資料作りの最中で、協議には至っていない状況です。この後の10月の当委員会でお示しできればということで進めております。

本日の資料で公共施設の見直しの現状をまとめた一覧表を配布しています。7月30日現在の状況で、現在、各施設がどのような取組みをされているかを記載してあります。あくまで中間の取組み資料ということでご報告申し上げます。

#### 【中川会長】

事務局にひとつお願いですが、この間、田村教授と話をしましたが、こうゆう委員会の形態で評価をしているところは全国にもない。ないことは先進的な取組みかもしれないが、先生の言われる各部局長のモチベーションについては組織として大きな問題だと思いますので、やり方、方法、真の目的を確認し、改善を加えるなり、検討が可能か専門的なアドバイザーの立場ですから他の情報も知っていると思いますので他の自治体の事例等もあれば教えてもらいたい。それを即この委員会に取り入れるという意味ではないが、実績を評価する委員会はそうそう無い。答申するのみというのが普通の委員会だということもあるので、検討して欲しい。

#### 【後藤委員】

施設について、民間移譲というのが良くあるが、いつ頃までに結論が出るのか。

#### 【丹下係長】

市では合併したことにより、1178施設を持っております。これらの施設をどう効率的に運営できるかということで見直しを図っており、民間移譲が多い理由に地域限定施設、団体限定施設、例えば地区集会所などの施設については地域に運営をお任せしましょうという考え方をもっております。また、民間の方が効率的に運営できる施設につ

いては、民間移譲ということで取組みを進めています。今日、お配りした資料の中でサービス事業は既に民で取組みがあるものですから、民にシフトできないかということで作業をしております。

【後藤委員】

民間移譲する時に補助金は出すのか、出さないのか。

【丹下係長】

行政は完全に手を引きます。

【後藤委員】

先ほど会長も話されていたが4月から予算執行だけど、答申は7月だし、何とか4月に答申できないか。

【中川会長】

地方自治体は出納閉鎖がある。出納閉鎖は5月末だから、それを見ないと出てこない数字もあるのでということをお含みおきください。

#### 4．今後の日程・連絡事項

【北見主任】

最終答申の日時ですが、8月7日（木）10時30分から20分間、市長応接室で行いたいと思います。都合の付く方はご出席願いたい。

【中川会長】

都合のつく方は是非、出席していただいて一言お願いしたいと思います。

（出席できる委員）

伊藤委員、甲斐委員、後藤委員、山本初子委員の4名。

今日の議事はこれで全てです。活発なご意見、ありがとうございました。

#### 5．閉会

信田職務代理あいさつ